

未来につながるアクション



今月は「生態系」に関するアクションをご紹介します。夏休み中に川や湖で遊ぶみなさんも外来種が持ち込まれるとどうになってしまうのかを一緒に考えてみませんか。



キーワードは「外来種の持ち込み」



カミツキガメのように、もともと日本にはいなかったのに、人間の活動によって国内に入ってきた生物のことを「国外由来の外来種」といいます。日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた場合も、“外来種”となります。このような“外来種”のことを「国内由来の外来種」と呼んでいます。外来種が侵入してくることでどんな影響があるのでしょうか。

参照：環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室

□ 私たちの暮らしにどんな影響がある？

生態系への影響、人の生命・身体への影響、農林水産業への影響の3つが主にあげられます。本来いるはずのない場所に外来生物がいるとその地域の生態系に影響が出てきます。噛まれてしまったり、毒を持つ危険な生物もいるかもしれません。また畑が荒らされてしまったり、農作物を食べられてしまうという被害も出てきます。それを事前に防ぐための3つのルールがあります。

□ 守ろう3つのルール！



入れない：悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ「入れない」。

捨てない：飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」(逃がさない・放さない・逸出させないことを含む)。

拡げない：既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」(増やさないことを含む)。 参照：環境省「日本の外来生物対策」

